

コロナ対策について—私たち 1 人ひとりができること

令和 2 年 4 月 7 日に、新型コロナウイルス感染症対策本部長は法第 32 条第 1 項に基づき、緊急事態宣言を行いました。

緊急事態宣言は、新型コロナウイルス感染症の現状とともに、政府や地方公共団体、医療関係者、専門家、事業者を含む国民が一丸となって協力して対策を進めていくことが必要です。国民の生命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要です。

そのうえで、まずは、三つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）を避けることをより一層推進し、さらに、積極的疫学調査等によりクラスター（患者間の関連が認められた集団）の発生を封じ込めることが、いわゆるオーバーシュートと呼ばれる爆発的な感染拡大の発生を防止し、感染者、重症者及び死亡者の発生を最小限に食い止めるためには重要です。

文部科学省においては、「臨時休業の実施に関するガイドライン」の改訂、「緊急経済対策パッケージ」として取りまとめられました。具体的には、「学校休業時における子供たちの学びの保障」として、GIGA スクール構想における、ICT を活用した家庭学習の支援、「感染症研究・大学病院への支援」として、治療薬やワクチンの開発等に貢献する大学等の研究基盤の強化などを支援しています。

横浜市立大学がんプロフェッショナル養成プランではこれまでの 13 年間、がんの先端的イノベーション人材養成としてトータルなものの考え方にに基づき、多様性の個の生き方、持続発展教育、グローバル化の人材養成の三本柱を中心に「トータル・オブ・システム」を打ち出してきました。がん対策基本法により（2007 年度施行）、全国どこでも質の高いがん医療を受けることができるようがん医療の「均霑化」に応じて、本学は 2007 年～2011 年度に文部科学省の第 1 期「がんプロフェッショナル養成プラン」、2012 年～2016 年に第 2 期「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、2017 年からは第 3 期「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランとして専門医の全国の大学を対象とする事業のうち、11 拠点（81 大学）が連携して All-Japan 体制で推進しております。

今回、本学では第 3 期多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材「がんプロフェッショナル」養成プランの推進を通して、サステイナブル・スーパー・プロフェッショナルとして緩和医療と多職種教育・均霑化教育を実践し、がん診療連携拠点病院と地域の病院、大学、医療関係者など、患者が自立的に個の責任ある生き方を全うできるように、すべては多様性の中で一つにつながっているという価値観を通して、お互いに寄り添い、理解し合いながら実践していく取組を推進しています。

私たちは多様性の中の一部であることをはっきり認識して、お互いに共存共生したつながりの中で共に生きる、生命の尊厳、ともに励まし合い、寄り添い、癒しあう新しい緩和として調和した社会を今こそ目指して行かなければなりません。

本学は先端的イノベーション人材養成の具体的な取り組みとして、トータルな考え方にに基づき、多様性、持続発展教育・グローバル化の人材養成の三本柱を中心として、それらを実現するために、キャンサーボード、多職種連携教育、プロフェッショナリズム教育、がん診療の均霑化、地域のがん診療の質向上の教育を「トータル・オブ・システム」に基づき実施してきました。また連携大学による先駆的な大学の教育基盤を遠隔同時中継による合同セミナーを通して共有してきました。2018年12月3日には第26回がんブ口市民公開講座「がんになった時の身近なサポーター」と題し、連携大学による遠隔同時中継を実施しました。がんサバイバーの方には、「がんになった時の身近なサポーター～がんになっても守られる自分らしさのために～」と題しご講演頂きました。ご自身の2度のがん体験より、最初は渡米先の病院にて子宮頸がんの手術を受けました。その5年後、神奈川県立がんセンターにて原発性の肝臓がんが見つかり手術をうけることになりました。米国で1年後、近所のホームドクター（かかりつけ医）で受けた婦人科検診で異常が見つかり、スペシャリスト（専門医）で受けた再検査では子宮頸がんが見つかりました。毎年検診を受けていたのになぜがんになったのかという不安や戸惑いのなげかけに、かかりつけ医は、検診は予防ではなく早期に見つけるためとの答えが返ってきました。いのちと向き合う患者と家族にとってQOL(Quality of Life: 生活の質)とLOL(Length of Life: 生活の長さ)の問題について生命の尊厳に向き合う機会となりました。その後、米国の婦人科がん専門医の病院で手術を受けましたが、早期退院（5泊6日）でありましたがホームドクターの整備が徹底していました。日本に帰国後、米国の体験から、がんになっても自分らしい生き方ができるように患者会・患者サロンの世話人代表になりました。各々の違いの尊い体験を生かされて自分らしい生き方としてお互いに支え合い、励まし合い、前向きになる、ポジティブな思考は、日常生活にできる体の大切さを考慮し、リズムに合わせてステップするダンス会など心身一体感は多くの方々の共感を与えられました。医療者においても、がん患者と家族にとって大切なものとして、「最先端の医療」、「的確な治療」、医療従事者の寄り添い、励まし、サポートを通じて人間らしい生き方として、支え合い、励まし合い、前向きになる、新しい緩和教育が取り入れられることで「トータル・オブ・システム」に基づき多職種・均霑化教育として教育・研究・治療につなげていくことが可能となります。

一方、科学技術の飛躍的な進展、情報通信技術（ICT）の進化により、グローバルな環境において第5期科学技術基本計画においては、日本が目指すべき未来社会の姿として政府は、これまでの狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムによって経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society5.0)を提唱しています。横浜市立大学がんプロフェッショナル養成プランではこれまでの13年間、がんの先端的イノベーション人材養成としてトータルな考え方を主流として1人ひとりが社会を支えていくという意識をもち全国どこでも質の高いがん医療を受けることができるようがん医療の「均霑化」をAll-Japan体制で推進して参りました。

2018年4月からは、横浜市立大学大学院医学研究科博士課程を対象とした「Next Generation Oncologist 養成コース」、多職種を養成する「次世代オンコロジー医療スタッフ」養成インテンシブプログラムとして「医科学インテンシブプログラム」「看護学インテンシブプログラム」を開設しました。本コー

スの教育内容は2007年より導入しているe-learningによってシステム化されがん医療に関する最新の知識や技術について学ぶことが可能となり、「トータル・オブ・システム」により次世代の社会、地域を創出し、すべては一つに結ばれ、一つにながっているという自他融合的価値観を認め多職種の均霑化教育を実践しております。今回の緊急事態宣言を受けて、本学大学院医学研究科の授業の一部をがんプロ e-learning クラウドシステムで開始いたします。

がん専門医療人育成のための院内の教育・診療体制として、本学ではキャンサーボードを中心に緩和ケアチーム、外来化学療法室、各科がん診療チームおよび放射線科のがん診断・治療グループでの検討の場として骨転移・希少がん・難治がんなどの症例検討をはじめがん診療の最新の知識、当院におけるがん診療の現状を知る場として大学の横断的連携の推進に貢献してきました。2015年からはがん地域連携カンファレンスを開催し、がん患者の症例を通し、がん診療連携拠点病院・大学・地域、社会のための医療政策を考える上で、医療機関の連携を進めています。2019年10月2日は第7回がん地域連携カンファレンス「嚥下機能障害のある患者の希望を支える地域連携」を開催、2020年2月5日には第8回がん地域連携カンファレンス「病状受容過程にあるがん終末期患者と家族を支える地域連携」を開催しました。事例を通し診療所の医師、ケアマネージャー、地域包括担当者と大学医師、看護師、薬剤師などの医療関係者が集い各専門家の支援として多様性を重んじる共存共生へとつながっていく生き方として共に生きる、生命の尊厳、新しい緩和としてお互いに支え合い、励まし合いながら癒され、他と共に助け合う生命の尊厳価値を理解しながらポジティブな思考につなげていくことが可能となりました。これらの地域連携体制を通して、お互いに支え合い、励まし合う意識をもってコロナ対策において一人ひとは自らに責任をもってしっかり自立して生きていかねばならない。その時は今を置いて他にない情報発信をすすめて参りたいと思います。

今後とも引き続き、がん医療の研究および人材育成のネットワーク構築を通して、コロナ対策においても共に力を合わせて尽くしてまいります。

2020年4月14日

横浜市大がんプロ

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yganpro/>

新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

国民の皆様へ（新型コロナウイルス感染症）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html#yobou

日本赤十字社

<http://www.jrc.or.jp/>